

英 語 科

1. これまでの取組(前年度からの課題を含む)

昨年度行った調査では約84%の生徒が「正確に英語を使って伝えられている」と回答したが、生徒が創出した表現には既習の文法や語彙に多くの誤りが残っており、生徒の意識と、実際に創出されたものとの間に差があることが明らかとなった。このことから、昨年度は、「適切かつ正確な表現でコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」を目指して、生徒が書いた英文を生徒同士で訂正する活動や文法校正アプリの使用などを行ってきた。その結果、生徒の自己省察と自己修正の力が高まった。一方で、正しい表現に固執しすぎてしまい、様々な表現を用いて表現豊かにコミュニケーションをとることに消極的な姿が見られた。文法や単語としての知識・技能の習得には意欲的に取り組む様子が見られるが、今までコミュニケーションを行ったことのない未知の場面において、新たな表現を考えたり、内容構成を変化させたりしながらコミュニケーションを行う思考力・判断力・表現力の育成に課題が残った。

このことから、本年度は「表現豊かにコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」を主題として、研究に取り組むこととした。一人一台のタブレット端末を効果的に活用し、表現活動に取り組むことで、表現豊かにコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指したい。

2. 英語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させるICTの活用

「学習の個性化」では、自分の好きなデジタルシンキングツール上に構成メモを作り、発表できるようにする。また、表現活動の様子を映像で残すことで、まとめる段階で、客観的に自分の表現方法や内容構成を振り返って改善点を見だし、自身の学びを調整することができるようにする。

「指導の個別化」では、聴解が苦手な生徒にゆっくりとしたスピードの音声教材を与えたり、構成メモに情報を整理することに難しさを感じている生徒に、まとめ方の例を示したりすることで、生徒それぞれの理解度や取組に応じて、粘り強く学習できるようにする。

「協働的な学び」ではお互いに表現活動を見合ったり、共有ノート上にまとめた構成メモを基に内容構成をペアやグループで振り返ったりすることで、聞き手に分かりやすい表現や内容構成を使用して、効果的に表現する力を伸ばしていくことができるようにする。

個人で考えた内容構成を基に表現活動を行い、更にそれを相手に応じて内容構成を変化させながら繰り返し、その後内容構成をペアやグループで振り返ることで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化として充実させ、「表現豊かにコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」を目指していく。

3. 問題解決の各過程におけるICTの活用

問題解決の過程	ICTの活用
つかむ	個 デジタル化された Can-do List に取り組み、映像で表現できることを確認する。
追究する	個 音声教材は音声のスピードを2段階(リピート用、シャドウィング用)から選択する。 協 共有ノートを使用して聞き取ったり読み取ったりした内容を共有する。 個 デジタル教科書の動画を利用して、概要を把握する。 個 デジタルシンキングツール上に内容をまとめ、リテリングに取り組む。
まとめる	個 デジタルシンキングツール上にカードを置き、集めた情報や自分の考えを整理する。 個 目的・場面・状況等をモニターで瞬時に提示し、それに応じた内容構成を考える。 協 発表や英語でのやり取りなどの動画を保存することで、発表を振り返り、単元の活動と個人目標、それに対する成果と課題を「言語面」と「内容面」から改善する。

2年 Program 5 Work Experience

(Sunshine English Course 2, 開隆堂)

育成を目指す資質・能力

自分が選んだ職場で体験学習を行いたい理由を聞き手が納得できるように、職場体験に行ってみたい場所やそこで学びたいこと、学びたい理由などを自分の将来像と結び付けながら考え、整理しながら伝え合うことができる。

ICTの活用のポイント 個 協

つかむ

1 単元の課題をつかみ、目標を共有する。

○ 単元目標を共有し、学習の見通しをもつ。

- ・本単元における表現活動の目的・場面・状況等を確認し、試しの活動に取り組む。
- ・試しの活動を通して感じた自己課題と、本単元における表現活動の目的・場面・状況等を踏まえて「言語面」と「内容面」から個人目標を立てる。

個 生徒は各単元で使用する Can-do List をロイロノートで提出することで、学習の蓄積をし、学びを振り返ることができるようにする。

2 課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

○ 新出言語材料の意味や使用場面を理解する。

- ・新出言語材料の音声や意味などの、言語面の定着を図る。
- ・具体的な場面、状況等を設定し、新出単語を活用した表現活動に取り組む。

個 デジタル教科書の動画を活用することで概要を把握したり、新出言語材料の使用場面や意味、用法等について理解したりすることができるようにする。必要に応じて繰り返し視聴することで、表現の意味と音声についても把握できるようにする。

○ 教科書本文の概要を理解する。

- ・教科書本文全体を聞いて、捉えた情報を個人でまとめたり、グループで共有したりしながら概要をつかむ。

協 ロイロノートの共有ノートを使ってワークシートを作成、配布することで、グループで協働して教科書内容の聴解や読解に取り組むことができるようにする。

○ 教科書本文の内容を読解する。

- ・捉えた教科書本文の内容をカードにまとめ、グループで協働してより細かい情報の理解に取り組む。

○ 内容や構成を考えながら正確な発音やアクセントで音読する。

- ・配布された音声教材(教科書本文を ALT が音読したもの)を活用して音読練習に取り組む。
- ・正確な発音、アクセント、音の連結等を意識しながら、内容や構成を考えながら音読練習する。
- ・互いの音読を友達と確認し合う。

個 音読練習時(リピート、シャドウイング等)の音声教材は音声のスピードを2段階用意して生徒に配布し、自分で選べるようにすることで、生徒が発音と表現を結び付けて理解することができるようにする。

追究する

○ 聞いたり読んだりして捉えた教科書本文の内容をデジタルシンキングツール上に構成メモとして整理して、リテリングする。

- ・これまでの授業で聞いたり読んだりして捉えた教科書本文の内容を要約し、口頭で伝え合う。
- ・捉えた教科書本文の内容を構成メモにまとめ、グループのメンバーや他のクラスメイトのまとめも参考にしながら教科書本文の内容を伝える活動につなげる。

協 ロイロノートの比較機能を使って、異なったまとめ方の工夫をしているカードを比べることで、どんな工夫があるかを共有して、その工夫を取り入れることができるようにする。

○ 教科書本文の内容を目的、場面、状況等を考慮して、リテリングする。

- ・興味がある場合とない場合でリテリングする。

○ リテリングの内容構成を基に、聞き手が納得できるように、職場体験に行ってみたい場所やそこで学びたいこと、学びたい理由などを伝え合うことができる。

- ・前時の内容構成を基に職場体験で行ってみたい場所やそこで学びたい理由を伝え合う。

個 集めた情報や自分の考えを構成メモとしてデジタルシンキングツール上に整理することで、目的、場面、状況等に応じて内容の変更追記、組み替えが容易になり、効率的に内容を再構築しながら表現することができるようにする。

まとめる

3 言語活動に取り組み、単元を振り返る。

○ どの職場で何を学びたいか、それが自分の将来にどうつながるかを考え、聞き手に分かりやすいように伝え合う。

- ・自分の夢の実現に必要なこと、知りたいこと、職場体験で学びたいこと等の自分の考えを整理し、なぜその職場で体験学習を行いたいかを伝え合う。
- ・本単元の学習を振り返り、成果と課題をまとめる。

協 表現活動後、構成メモ上のカードを入れ替えたり、カードを付け足したりしてすることで、ペアやグループで表現活動を振り返ることができるようにする。

個 活動の様子を動画に残しておくことで、単元目標を達成できたかどうかを客観的に振り返ることができるようにする。

Program 5 Work Experience


 ロイロノート
・共有ノート

ICT 活用のポイント

複数教材を用いた学習の個性化と、クラウドを活用した協働学習

<目標>

教科書本文を聞いたり、読んだりして得た情報を構成メモにまとめることで、表現豊かに概要や要点を伝えることができる。

ウォームアップ活動に取り組む・
本時の課題をつかむ。

- ・簡単な短い英文を聞き、聞き取った内容を友達に口頭で伝える。
- ・本時の課題を把握し、学習の見通しをもつ。



情報をグループで共有し、共同編集で内容理解に取り組む。

- ・教科書本文の内容を理解し、グループで情報を共有する。
- ・グループで共有した情報を基に、デジタルシンキングツール上に情報をカードとしてまとめ、概要や要点を説明する活動に取り組む。



本時のまとめ、振り返りを行う。

- ・他のグループの共有ノートを自由に閲覧する。
- ・条件を加えてグループで作成した構成メモを個人で作り替える。

生徒が教材を選んで取り組む、学習の個性化

- 個** ウォームアップ活動を行う際には、ロイロノート上でリスニング教材を複数配布することで、自分がより興味のある内容や、習熟のレベルに応じて選択できるようにする。
- 個** デジタル教科書の映像を活用することで、視覚的な情報を得ながら内容を理解できるようにする。

クラウドを活用した情報共有と協働学習

- 個** 分からない表現や単語等は、ウェブ上の辞書の使用して意味を調べることで、教科書の本文を個人の力でできるだけ読み取ることができるようにする。
- 協** 個人で読み取った情報をロイロノート上のグループ内で共有することで、新たな表現に気付くことができるようにする。
- 個** 再度個人で教科書を読み取る時間を設けた後、再度共有ノート上に情報を追加できるようにすることで、自分が読み取れなかった情報に気付くことができるようにする。
- 協** デジタルシンキングツール上に教科書本文の内容を構成メモとして残すことで、内容構成を入れ替えて、教科書をリテリングできるようにする。
- 個** グループで作成した構成メモを参考にすることで、教科書をリテリングできるようにする。

構成メモを効率的にシェアした学習の振り返り

- 個** 他のグループの共有ノートを閲覧することで、他のグループの表現を個人のノートに取り入れて自分の新たな表現として使うことができるようにする。
- 個** グループで作成したメモと自分で作成したメモを比べることで、自分の思考や判断を振り返ることができるようにする。



共有ノートを使って個別の情報を共有したり、共有した情報を再び条件を加えて個人で作り変えたりすることで、内容構成を工夫して表現する様子が見られた。

4. 成果と課題

実践を終えての成果

- ・目的・場面・状況等に応じてプレゼンテーションやスピーチなどの構成を考えさせることで、デジタルシンキングツール上のカードを置き換えたり、文の順番を変えたり、文を作り替えたりするなどの表現を工夫しようとする様子が見られた。
- ・スピードの異なる音声教材を用いたことで、自分が聞き取ることが難しい部分を繰り返し聞いて、教科書本文の概要を理解することができた。
- ・共有ノートを活用して、個人で理解した教科書内容を共有することで、自分の理解できていない情報を認識することができた。また、認識したうえで再度聞き取りや読み取りを個人で行うことで、理解できていない表現と音と使用場面を確認することができ、表現についての理解が深まった。
- ・表現活動を見合う際に、構成メモをスクリーンで共有したり、グループで画面配信をしたりすることで、友達がどのような工夫を表現活動中に行ったかが分かり、そのような工夫を自分の表現活動に取り入れるために、構成メモを再構成しようとする姿が見られた。
- ・英語での発表ややり取りなどを動画として保存したことで、自分の発表を客観的に振り返り、単元間の成長や次の発表への改善点などを見いだすことができた。
- ・表現活動の際に、構成メモをロイロノート上のカードにまとめたり、デジタルシンキングツールを活用することで、考えを再構築したり、新たな情報をカードで付け加えたりして、聞き手に分かりやすい表現や内容構成を使用して表現豊かにコミュニケーションをとることができた。
- ・相手とやり取りを行う前に作った構成メモと相手とのやり取りを経て内容構成を改良したメモを比較することで、自分が行った工夫が効果的であったかを振り返り、その後の表現活動で更に相手に分かりやすく、より興味をもってもらえるようにするにはどうしたらよいかについて考えることができた。

今後の課題

- ・デジタル教科書の動画を使用したことで、概要の理解については短時間で行うことができたが、リテリングにつなげるためには、手順が多く活動に時間がかかるため、個人でのリスニング→グループでの共有→個人でのリスニング→グループでの情報共有→リーディング→要点の抜粋という流れを精選、工夫してリテリングの時間を確保する必要がある。
- ・教科書を用いたリテリングの活動は目的・場面・状況等を意識することができず、リテリング自体が目的となってしまう状況が見られた。メールで情報を伝える場面、海外の友達にビデオレターで紹介する場面など様々な目的・場面・状況等について表現する機会をもつことで、同じ内容でも表現の仕方や内容構成に変化を加える必要性を感じられるような場面を設定したい。
- ・目的・場面・状況等などによって、表現の内容や順番を変える等の工夫が起らない生徒も見られた。質問例や相手からの応答を活用して表現活動を行う例を示すことで、相手に応じて内容構成を工夫しながらコミュニケーションが図れるようにする。

<参考文献>

群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』

小泉利恵（編著）（2022）『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』大修館書店

国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校英語』 東洋館出版

文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版